

広島県における腎不全対策の特長と問題点

福田康彦、土肥雪彦

広島県においては、昭和53年から広島大学、広島県医師会、広島県環境保健部の3者からなる広島県地域保健対策協議会に属する小委員会（腎臓）が設立され、県下腎不全対策の中心的役割を果たしてきた。とくに血液透析の実態調査、腎移植推進およびドナー登録運動が現在まで継続的に行なわれ、成果をあげてきた。

昭和62年度より腎臓移植委員会と名称を変え、腎臓移植の推進に重点をおくことになった。現在、委員長を広島大学第二外科の土肥雪彦がつとめ、各界から12名の委員が任命されている。本年度の事業計画は、県下透析実態調査、腎提供登録推進運動、腎バンク設置運動、腎移植体制の整備の4点があげられている。

昭和63年度の県下透析および腎移植実態調査の結果を要約して以下述べる。これは昭和63年4月1日から平成元年3月31日までの実態を、透析施設へのアンケートにより調査された結果である。

1. 透析患者の実態

1) 透析患者数

慢性腎不全により透析療法を受けている患者総数は2,211名であり、昨年よりも180名増加している（図1）。人口100万対比では784名であり、全国平均の721名を越えている。しかし、その伸び率は8.9%であり、全国平均の9.9%を下回り、伸び率の頭打ちの傾向がうかがえる。

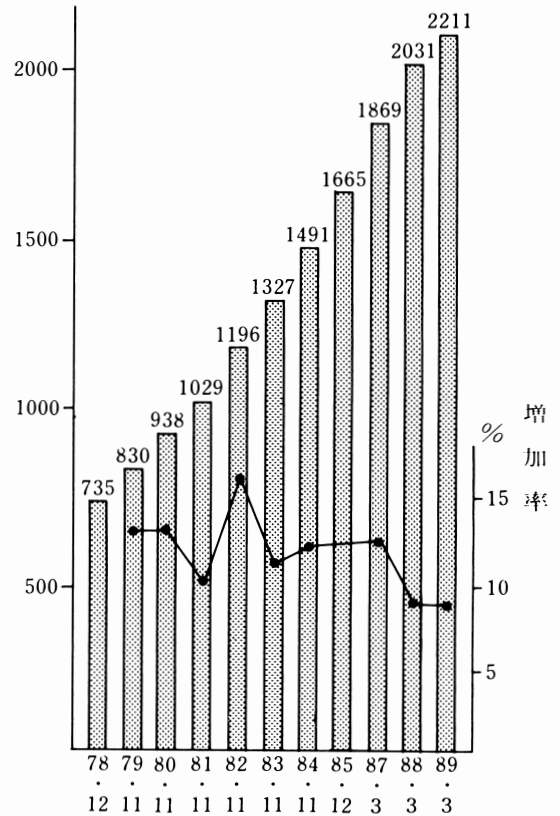


図1 広島県下透析患者数年次推移

2) 治療形態

表1に示す様に、入院治療を受けている患者は全患者の16.9%であり、全国平均の13.9%よりも高い。

公的病院で管理されている患者は385名、17.4%であり、全国平均の24.3%にくらべると私的医療機関に依存する割合がきわめて高いことが特徴的である。

表1 広島県下透析患者治療形態

保健医療圏	サブ保健医療圏	外 来	入 院	公的病院患者数
広 島	広 島	816(84.4%) ^人	151(15.6%) ^人	163(16.9%) ^人
	廿 日 市	15(45.5%)	18(54.5%)	0(0.0%)
	東 広 島	58(86.6%)	9(13.4%)	25(31.3%)
	計	889(83.3%)	178(16.7%)	188(17.6%)
呉	呉	243(83.5%)	48(16.5%)	64(22.0%)
	竹 原	25(78.1%)	7(21.9%)	0(0.0%)
	計	268(83.0%)	55(17.0%)	64(19.8%)
備 後	福山府中	439(83.3%)	88(16.7%)	39(7.0%)
	三 原	78(76.5%)	24(23.5%)	0(0.0%)
	尾 道	96(81.4%)	22(18.6%)	62(52.5%)
	計	613(82.1%)	134(17.9%)	101(13.5%)
備 北	三 次	48(92.3%)	4(7.7%)	10(19.2%)
	庄 原	17(77.3%)	5(22.7%)	22(100%)
	計	65(87.8%)	9(12.2%)	32(43.2%)
合 計		1835(83.0%)	376(17.0%)	385(17.4%)

表2 透析時間帯と透析の種類

保 健 医療圏	サブ保健 医 療 圏	血 液 透 析					腹膜灌流	
		昼 間	準 夜	昼間準夜	夜 間	家 庭	CAPD	IPD
広 島	広 島	680(77%)	167(19%)	15(2%)	18(2%)	0(0%)	87	0
	廿日市	33(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0	0
	東広島	57(85%)	2(3%)	1(2%)	0(0%)	0(0%)	7	0
	計	770(70%)	169(17%)	16(2%)	18(2%)	0(0%)	94	0
呉	呉	258(90%)	0(0%)	19(6%)	8(3%)	1(1%)	4	1
	竹 原	32(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0	0
	計	290(91%)	0(0%)	19(6%)	8(2%)	1(1%)	4	1
備 後	府中福山	394(76%)	103(20%)	18(4%)	0(0%)	0(0%)	12	0
	三 原	95(93%)	6(6%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)	0	0
	尾 道	73(64%)	19(17%)	22(19%)	0(0%)	0(0%)	4	0
	計	562(77%)	128(18%)	41(5%)	0(0%)	0(0%)	16	0
備 北	三 次	52(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0	0
	庄 原	22(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0	0
	計	74(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0	0
合 計		1696(81%)	297(14%)	76(4%)	26(1%)	1(—)	114	1
		2096(94.8%)					115(5.2%)	

透析療法別に見ると、2,096名、94.8%が血液透析を受けており、5.2%がCAPD,IPDで維持されている(表2)。CAPDは、昨年よりも27名増加し、CAPD先進県となっている。

昼間透析と準夜透析は各々81%、14%であり昨年と大差ない(表2)。準夜透析の地域的片よりの積年の課題である。

3) 患者年齢と糖尿病

患者の年齢分布は50歳代にピークがあり、71歳以上および20歳以下の患者が昨年よりも増加する傾向にある(表3)。

糖尿病性腎症の患者は280名、12.7%であり、全国平均とほぼ等しい(表4)。

表3 透析患者の年齢

年 齢	人 数
0～10歳	3 (0.1%)
～20	18 (0.8%)
～30	77 (3.5%)
～40	286 (13.1%)
～50	533 (24.3%)
～60	584 (26.6%)
～70	440 (20.1%)
71～	253 (11.5%)
計	2194

表4 糖尿病性腎症の患者数

保 健 医 療 圏	患 者 数
広 島	172 (17.6%)
呉	26 (8.0%)
備 後	77 (10.3%)
備 北	5 (6.8%)
	280 (12.7%)

II. 透析施設の実態

1) 透析施設

透析施設の総数は昨年よりも2施設増えて計54施設となった。各施設名を表5に示す。

血液透析台数は956台で、昨年よりも32台の増加である。近年ではもっとも少ない増加率である。

表5 広島県下透析実施施設

(平成1年3月31日現在)

保 健 医 療 圏	サ ブ 医 療 圏	透 析 施 設 名	透 析 台 数	透 析 患 者 数	透 析 余 力
1	広 島	広島大学付属病院	3	24	1
2		広島市民病院	30	66	3
3		県立広島病院	22	55	0
4		加計町立病院	3	5	6
5		土谷病院	152	393	10
6		尾鍋外科病院	2	3	1
7		山地内科医院	8	13	11
8		溝口皮膚泌尿器科医院	6	8	2
9		福馬外科病院	30	89	10
10		博美医院	18	48	3
11		富吉外科病院	9	17	10
12		井口泌尿器科医院	16	22	8
13		山下医院	17	39	12
14		原田内科医院	56	159	18
15		吉田総合病院	9	18	2*
16		南海田病院	9	8	19*
17		廿日市	阿品土谷病院	18	33
18	東 広 島	国立療養所広島病院	7	25	0
19		木坂病院	4	4	4
20		西条中央病院	4	4	4
21		本永病院	16	34	6
22	呉	呉共済病院	19	48	0
23		国立呉病院	5	16	0
24		中国労災病院	2	0	0
25		博愛病院	33	97	3
26		中央内科クリニック	32	83	5
27		腎友クリニック	21	41	1
28		西亀診療院	6	6	0
29	竹原	安田外科病院	13	32	19
30	三 原	土肥病院	30	61	0
31		興生総合病院	35	41	10
32	備 後	公立みつぎ総合病院	14	30	2
33		尾 松本病院	5	3	3
34		尾道クリニック	20	47	5
35		日立造船因島総合病院	8	22	5
36	木曾病院	9	16	20	
37	府中・福 山	国立福山病院	5	8	2
38		福山市民病院	5	18	1

保健医療圏	サブ医療圏	透析施設名	透析台数	透析患者数	透析余力	
39	備後	梶尾医院	7	13	2	
40		井口病院	4	5	2	
41		笹原病院	58	147	21	
42		三愛病院	12	16	13	
43		島谷病院	10	3	10	
44		セントラル病院	15	41	4	
45		法宗外科胃腸科医院	1	1	3	
46		山陽クリニック	41	108	20	
47		杏徳西診療所	13	16	10	
48		小島病院	10	20	10	
49		平山クリニック	10	23	7	
50		寺岡記念病院	24	95	12	
51		日本鋼管福山病院	6	13	7	
52		備北	双三中央病院	6	10	3
53			加美川クリニック	27	42	10
54	庄原赤十字病院		11	22	0	
計			947	2211	342	

*新規施設

各施設が現時点で受け入れ可能と回答した患者数を透析余力とすると、総計342名であり、透析収容能力は1.9年分になる(表6)。昨年の2.7年分に比べると余力の低下傾向がはっきりとある。

表6 血液透析台数及び血液透析余力

保健医療圏	血液透析患者数	透析台数	1台平均患者数	透析余力	収容能力
	人	台	人	人	年
広島	973	439	2.2	132	1.28
呉	318	131	2.4	28	2.00
備後	731	342	2.1	169	3.76
備北	74	44	1.7	13	13.00
計	2096	956	(2.1)	342	(1.9)

()…平均値

2) 透析従事者

透析従事者は昨年よりも21名増加して627名である(表7)。その増加は准看護婦に集中してい

る。臨床工学士の資格をもつ透析技師は、42名、46%であった。

表7 透析従業者

従業員内訳	人数
医師	130名
専任看護婦	248名
兼任看護婦	157名
透析技師	92名
(内臨床工学士42名)	
計	627名

III. 腎臓移植の実態

1) 腎臓移植希望者

腎臓移植希望者は透析患者の15.6%、346名である(表8)。そのうち81.5%は死体腎移植希望である。しかし、死体腎希望者数は実数においても昨年より減少しており、死体腎移植推進が思うにまかせない現状に患者側が敏感に反応した結果と思われる。

表8 腎臓移植希望者

保健医療圏	生体腎移植希望	死体腎移植希望	計
広島	26	82	108(10.1%)
呉	17	41	58(18.0%)
備後	20	152	172(23.0%)
備北	1	7	8(10.8%)
計	64	282	346(15.6%)

表9 県下腎移植実施症例

(昭和63年4月～平成1年3月)

広島大学第2外科	6(1)
県立広島病院	1(1)
呉共済病院	6(0)
計	13(2)

()…死体腎移植数
*県下受腎者総数18名

2) 腎臓移植実績

本年度の広島県下の腎臓移植実施状況を表9に示す。計13例の移植が3施設で行なわれ、昨年よりも1例のみ増えている。昨年0であった死体腎移植が2例行なわれているが、全国的にみても死体腎移植対策の遅れが目立つ結果である。

IV. まとめと今後の課題

- 1) 透析患者の増加率は8.9%で、増加率の鈍化傾向が明らかとなってきた。それに伴い透析余力も減少し、各施設の対応に積極性が見られず、今後の動向に注目する必要があると思われた。
- 2) 治療形態としてCAPDの増加が着実に見られた。今後は、CAPDが患者にどの程度、どの様に寄与しているかを検討する必要があるものと考えられた。
- 3) 透析患者の高齢化と糖尿病性腎症の増加傾向がみられ、今後の新たな腎不全対策の必要性を示唆した。
- 4) 腎臓移植は依然として症例数の増加が見られず、腎バンクの設立、各医療機関の協力体制、コーディネーターの養成などの具体的な施策の早急な実施が必要と考えられた。

文 献

小高通夫：わが国の透析療法の現況（1988年12月31日現在）、日本透析療法学会。
土肥雪彦、福田康彦：人工透析実態調査結果報告（昭和63年度）、広島医学 42：1835-1840, 1989.